

令和3年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式を執り行いました

令和4年3月25日（金）、長崎大学医学部記念講堂にて、令和3年度 医学部医学科卒業証書・学位記授与式が執り行われ、120名の卒業生が新たな門出を迎えました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮するため、卒業生と一部の関係者のみが参加しました。

前村浩二医学部長の祝辞では、新型コロナウイルスが医学の力でその正体が明らかになり制圧される過程をリアルタイムで体験したが、医療人になってからも未知の疾患に対し、自分の頭で考えて行動する力で、その克服に向かって挑戦して欲しい。長崎大学医学部の卒業生である自覚と誇りをもって、今後の医療、医学界で羽ばたいて欲しいと述べられました。

また、卒業生代表の石飛俊介さんからは、「医師としてのスタートラインにたった今、これから医師として歩み出すことに気が引き締まる思いである。医師として働くことに楽しみもあるが、同時に不安や畏怖の念も感じている。責務に耐えられるよう、ゆっくりでも、一步一步着実に前に進み、挑戦を繰り返し、医療の一端を担うことができるよう励んでいきたい」と答辞が述べられました。

長崎大学医学部医学科は、医療人になるための一歩を踏み出された卒業生の皆様の門出をお祝いし、今後のご活躍とご健勝を心より祈念いたします。

